

淫爆乳NF専用人妻家畜 美世子

——反片貪馬本——

※ムチムチに熟れた豊乳の未亡人・細川美世子は、現代に蘇った太古の妖魔・ニゴリガミに娘の美樹を人質にとられ、乳房肥大改造や乳腺性交調教を施される。気の狂うような乳責めの拳句、ついに乳牝に堕ちた美世子はニゴリガミの乳僕になることを誓わされ、その300センチの淫爆乳で精液を集めて妖魔に献上すべく、夜な夜な繁華街で男達を集めて乱交パーティーを繰り広げるのだった。

（ああ、もう欲しい……オッパイの中に）

理性の蕩けた美世子の前には、汗と精液の匂いにまみれた数十もの逞しい男のボディ。

美世子はベンチの上に座りなおし、両手を頭の後ろに組んで、その巨大なバストを誇るように胸を前に突き出した。

「……乳首のジッパーを降ろしなさい。あなた達に、セックスを超える真の快楽を教えてあげるわ」

じじじい……と胸の先端のジッパーが降ろされる。

爽やかな夜の空気が密閉されていたジャケットの内側に入ってくる。男達の視線が胸の先端に針のように集中しているのを感じる。

ジッパーが完全に降りると、桃肉色の鉄塔のように勃起した巨大乳首がぶるんっとまろび出て、母乳の愛液でどろどろに濡れた乳性器のクレヴァスが露出した。乳首の先につづく穴は、連夜催される乱交ファックで貫かれ、乳の中身がペニスの形に細く見えるほどにエロく変形していた。

「この穴にあなた達のチ○ポを挿入するの。オッパイとのSEXよ。ニプルファックって知ってるかしら？」

男達は誘蛾灯に集う蛾のように、美世子を中心にその輪を縮め、固く勃起した立派なニップルと乳輪の女性器に見入った。

「すげえ……オッパイに穴が開いてる」「まるで乳の性器だ……」「オッパイマ○コだ。ほ

んと挿入できるのか……」「こんなエロデカいオッパイなんだから、ニップルファックも出来るだろ。俺、夢だったんだ……」

たくさんの男達に興味津々で見つめられ、勝手な妄想や憶測でまた彼らの股間が膨らんでいくのを見て、美世子は胸が疼いた。こんな恥ずかしい体が大勢の人にじっくり観察されている……慣れる事のない羞恥が彼女のデリケートな心を貫き、マゾの被虐的な歪樂がぞくぞくと背筋を這う。

いつまでもそうしていると、欲望の母乳がごぼっと湧き上がってきそうで、頬を赤らめた美世子は怒ったような口調で群衆に言った。

「い、いつまで見ているの？ 私のオッパイとSEXするの？ しないの？」

すると、ニップルファック狂いの男が2人、他の男達を押しつけて美世子のオッパイに覆い被さった。彼らはフェロモンとは別の麻薬で脳髓が痺れているかのように、血走った目でギンギンに勃起した肉棒を手で扱っていた。

「さ、先に犯らせてくれ。頼む」

彼らは今にも爆発しそうな肉棒を美世子のニップルに押しつけ、その硬さを競うかのように擦り上げた。

(んん……いいわ。やっぱり乳首に生のオチ○ポが欲しい。私、ああ、いけない事なのに、ニップルファックを想像しただけでオッパイが疼いてしまう……)

彼らは手先で微調整を加えると、いよいよ乳首の穴へと男根の先端を当てて、ずいっと腰を沈めはじめた。

まだ若く、強靱な男のペニスが、乳性器の柔らかな入り口を割って、美世子の中に入ってくる。細い乳腺がぐぐっと開き、侵入者の形状に変わっていく。とても異物が入りそうもない小穴は、はしたなくも母乳の涎を滴らせながら喉を鳴らし、乳腺の奥底へと男根をみずから呑み込んだ。

ずぬぬぬ……と、肉と肉が擦れ合う、そんな音が聞こえてきそうなほど生々しく、乳と男根とは深々と交接していた。

「おおっ、入っていく！ 乳の中に、チ○ポが吸い込まれていくぞお！」

男は歓喜に狂乱して叫び、ペニスの根元まで美世子と繋がった。最初にこういう血走った目で美世子の乳腺に嵌めたがるのは、大抵ニップルファック狂と相場が決まっている。もう片方も負けじとニップルを亀頭でこじ開け、少し乱暴なくらい勢いよく、下半身を美世子の中に滑り込ませた。

途端、電撃が美世子の乳に走り、イキそうになる。灼熱の剛棒が2本も美世子を貫いている。オスの興奮で膨らんだ亀頭のエラが乳腺の上天井を圧迫し、美世子は性感帯を押されて気をやりそうになったのだ。

(やっと……はあはあ、挿入された。私のオッパイマ○コに、太っといチン○ンが。丁度亀頭の膨らんだところが性感帯を刺激してて、凄く気持ちいい。はああ、ご主人様あ、美

世子は他人のペニスでニプルファックされてますうう……！)

「う、動くぞお。ついに念願のニプルファックができるんだ。もう死んでもいい！」

男達はレザージャケットの上から美世子の乳房に爪を食い込ませ、乳腺の奥底へ分身を埋めるかのように、最初から激しく腰を打ちつけ始めた。ずうーん、ずうーん、ずうーん……と、肉のドラムを耳元で打つような震動が、乳肉に波紋を起こし、左右の乳肉をびりびりと共鳴させる。

「はううう！ そ、そんな最初から激しい！ それにオッパイに爪を立てたら痛い。も、もっとゆっくり楽しみながら……ね？」

「うおおお！ うおおお！」

乳を穿つような激しいニプルファック。正気を失った男のペニスは乳首を巻き込みながら前後し、乳内から引き抜かれる寸前にまた乳腺に深々と埋没する。乳首は乳性器の入り口でもあるので、ペニスを受け入れる時は乳内に沈み込み、出るときに肉をめくり返しながら外に露出する。それはまさに女性器のごとき淫靡な有様で、乳輪の大陰唇とともに性交用の穴と化していた。そのエロい肉穴がペニスの出入りとともに母乳を弾かせ、白い飛沫を男達の腰へと飛ばすのだ。

左の乳房を犯す男も負けてはおらず、こちらもニプルファックで美世子を犯す。さして固くも強くもなかった肉棒がいまは興奮で2倍以上に膨れ上がり、乳腺の中で灼熱の棒のように熱い。そして彼も技巧も何もなく、右の男同様に獣の腰振りで、ただ本能的に肉と肉とを擦り合わせて、快楽を生んでいくのだった。

そんな単純なSEXが美世子には堪らなく気持ちいいのだった。

「ああああ！ オッパイが溶けるう！ 逞しい男性のもので乳首を貫かれて、淫爆乳に肉の栓をされているのぉ！ もう乳腺が灼けてメロメロになってえ、オチ○ポ汁が欲しくなってるのぉ！」

美世子は胸を前後に振り、みずから深く乳腺を犯す。彼女の興奮の度合いが母乳の愛液を濃くし、どろどろの乳液が大量にペニスの隙間から滲み出ている。乳輪のクレヴァスは充血して肥り、ぷっくりと半円形に丸く膨れ上がっていた。

その柔らかな乳輪を乳の中に押し込むように男達は腰を動かし、また深々とペニスを埋没させる。まるで拒絶するかのように肉の圧力で抵抗する淫爆乳を力づくで蹂躪することはオスの本能を呼び覚まし、彼らはますます激しく腰を振りたくるのだった。

——そして、彼らの限界は同時に訪れ、ぶるるっと乳の中で男根が震えたかと思うと、物凄い量のザーメンが美世子の中を逆流してきた。

どっくん！！ どくんっ、どくんっ、ドクンッ……………！！

「うああああーッ！！」

男と女の嬌声が重なり、見事なアンサンブルを奏でる。男達はその極上の肉袋の中にいつまでも飽きることなく精を放ち、やっと全てを放出し終えて抜いた時には、乾燥した椎

茸のようにみすぼらしくなっていた。

対照的に美世子の淫爆乳はエロさと艶めきを増し、ついでに精液を受け入れた分、多少増量しているように見えた。

美世子は痴女の顔でべろりと唇を舐め、精液と母乳で濡れた乳塊を両腕の中で誇らしげに寄せた。

「いいわ……なかなか気持ちよかった。でも私はまだイってない。私の乳マ○コに嵌めた
いコは、どんどんいらっしやい。何本でもチン○ンを受け入れてあげる。その代わり、絶
対に中出しするのよ」

体験版 END

美世子の「痴女篇」パートです。続きは本編でお楽しみ下さい～～♪